

社団法人 資源・素材学会
建設用原材料部門委員会

建設用原材料部門委員会は、資源・素材学会の活動の柱である部門委員会の一つで、土木・建築用原材料の評価・利用技術の確立を目的として設立されました。

発足当時は、良質な骨材資源の枯渇や廃棄物の処理が社会的問題であったため、

- ① コンクリート用骨材の評価に関する調査研究
- ② 石灰石骨材を使用したコンクリートの耐久性に関する調査研究
- ③ 廃棄物の骨材化に関する調査研究

を課題に選び、研究者・技術者間の意見交換、討論の場としてワーキンググループを設置して活動を開始しました。ここで得られた研究の成果は、本委員会が半期ごとに発行している本論文報告集『建設用原材料』をはじめ、関連学協会で発表してきました。

この6年間の活動で、①および②については当初の目的がほぼ達成されたと考えられますので、これらのワーキングを前年度で終了し、これに代わって今年度より、地球環境問題とコンクリートの耐久性の関連を検討するため、「地球環境とコンクリート」を研究課題として取り上げることとしました。

昨今、改めてコンクリートの耐久性が論議されています。これは、高度成長期を頂点とした時期に作られたコンクリートには、構成する材料に起因する劣化や炭酸化が早いなど、組織あるいは構造的なことも含めて耐久性に問題があることが、様々な調査研究から裏付けられたことに端を発しています。

今後、従来にもまして酸性度の高い降下物や強いエネルギーを持つ紫外線がコンクリートに作用することが考えられます。コンクリートの将来を考えると、環境との相互作用を無視しては耐久性の高いコンクリートを作り出すことはできません。

コンクリートが接する環境が変化の中で、耐久性はどのように評価されるべきか、どうすれば耐久性の高いコンクリートを実現できるかなど、耐久性に係わるこれらの問題を検討するため、「地球環境とコンクリート」という研究課題を取り上げました。

この趣旨にご賛同され、ワーキンググループに参画を希望される方は、本委員会事務局までご連絡ください。なお、そのほか新しい研究課題のご提案もお待ちしています。

1994年9月